



女性協議会

女性協拡大常任委員会 獲得成果の報告や 今後の課題も明らかに



「女性のつどい」についても協議

3月9日(土)に東京・青山の「アトモの城」で民放

労連女性協拡大常任委員会が開かれました。会議には

全国の地連の女性メンバーら一三人が参加し、民放労連の赤塚才ホロ中央執行委員長も出席しました。今回、初めての試みとして託児付きにしました。子育て中のパパやママが参加しやすいだけでなく、子どもたちもこの「城」で遊び、新しい友だちも増え満足そうでした。

●女性協
URL
<http://www.minpororen.jp/women/index.html>

また、各労組で抱えている女性の問題についても発表されました。ある労組ではアナウンサーが上長に結婚の予定を報告したところ「三年は子どもを作らないよな」などと人生の自由を束縛するような発言があったとの報告がされました。また、育児を申請しようとした女性が会社から「昔は辞めたんだけどな」とまるで退職を勧告するようなことを言われた事例が紹介されました。

全体としては男女平等や育児などに対する制度は各社とも年々充実されつつあるようです。しかし、看護休暇の拡大や、もっと使いやすいベビーシッター制度、出産や育児で退職した場合の再雇用制度などを今春夏闘で求めているとの報告がありました。

会議では「全国女性のつどい」についても協議しました。今年は記念すべき五〇回目のつどいで、6月8日(土)、9日(日)に仙台市で開催されます。東北地連女性協議会が主体となって準備を進めています

生きていこうよ(仮)」と題する講演を行います。また、分科会は「地震のメカニズム」「放射能と食の安全」「福島の実状」などをテーマに開かれる予定です。さらに二日目は前回の北海道でも人気のあった早朝ラウンジ企画を企画しています。ほかに、被災地視察のバスツアーなども組まれる予定です。参加募集は4月ごろの見込みです。興味のある方は男女問わず、ぜひ参加してください。

つどいは現在、年に一回開かれていますが、開催地の地連の負担も大きいことから、隔年開催にして、東京で開く定期大会と交互に9月ごろ行つてはどうかとの提案がありました。隔年開催にする利点としては、つどいの予算を増やすこともできるとの説明がありました。しかし出席者からは「隔年開催だと、開催地が回ってくるのは二年ごととなるため引き継ぎが難しい」「引継ぎは規模にもよるが書類でも可能では」「隔年開催に賛成」「規模を縮小して毎年開催にしては」「つどいの開催には地連のバックアップも受けているが、9月の開催では地連の

定期大会と重なり手伝つてもらうのが難しくなる心配がある」「つどいは参加人数が分からない中で準備を進めるため、予算が増えるのは魅力的」「定期大会の参加人数を増やすことも考えな

くては」などと様々な意見があげられ、結論は出ませんでした。このため、つどいの隔年開催については労連の中央執行委員会などにも報告しながら継続して話し合うことになりました。

が、「未来ヘツナク経験、そして生きるチカラ」と銘打って、東日本大震災に特化した内容になっていきます。記念講演では仙台市出身で震災の日に気仙沼港の市場にいた、漫才コンビのサンドウィッチマンが「震災を忘れずに」でも笑って